

別紙 1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 BOUNFENG PHOUMMALAYSITH

論 文 題 目

Factors associated with routine immunization coverage of children under one year old in Lao People's Democratic Republic

(ラオスにおける 1 歳未満児の定期予防接種率に関する因子)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

若 井 建 志 

名古屋大学教授

委員

木 村 宏 

名古屋大学教授

委員

高 橋 義 行 

名古屋大学教授

指導教授

濱 嶋 信 之 

論文審査の結果の要旨

ラオスにおける定期予防接種は、2025年までにすべてのワクチンの接種率が95%を超えることが国の目標とされている。すべての省と郡において、人口統計学的因子や医療学的因子と定期予防接種率との関連を調べた。2002年から2014年の13年間のBCG、DTP-HepB3（DTP+B型肝炎ワクチン3回）、OPV3（ポリオワクチン3回）およびMCV1（麻疹ワクチン1回）の接種率は、特に2007年～2014年の間に上昇を認めた。13年間の接種率改善は全ワクチンの中でBCGが最も低かった。各ワクチン接種率は互いに相関していた。低接種率の省（DTP-HepB-Hib3接種率<80%）は高接種率の省に比べて、有意に貧困村率が高かった。以上の結果より、国全体の予防接種率を上げるためにはBCG接種率と貧困村を改善することが必要と考えられた。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 2014年の各省における妊婦健診1回受診率および4回受診率は、51.3～93.9%および2.3～29.5%であった。各省における4種類のワクチン接種率と妊婦健診1回受診率、あるいは4回受診率について、いずれも相関関係は認められなかった。





2. 1996年より貧困根絶政策が始まり2020年までに国民総所得を2,500ドル以上に達することが目標とされている。貧困根絶のためには、貧困村を対象とした医療サービス改善プログラム、道路整備、地域社会における教育プログラムなど、様々な分野で多くの介入が行われている。国民総所得は徐々に増加し2016年には2,150ドルに達し、貧困家族の割合は2002年の36%から2016年には17%にまで低下した。

3. Health centerで分娩した場合には退院前にBCGワクチンを新生児に接種する。自宅分娩の場合には、村の医療ボランティアからhealth centerに報告され予防接種の予定がたてられる。へき地ではhealth centerからのモバイル医療チームが予防接種を目的として村を訪問する際に、予定外にBCG接種が必要な子供を見つけた場合には1人だけであっても接種するようにしており、他のワクチン接種のための訪問の際にもBCGワクチンを持参するようにしている。接種率を上げるために、1歳までの子供は無料でBCGワクチンを受けられる。

本研究は、ラオスにおける定期予防接種率改善のために、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名 BOUNFENG PHOUMMALAYSITH
試験担当者	主査 若井建志  木村 宏  高橋 義行 		
	指導教授 濱嶋信之 		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 妊婦健診の受診とワクチン接種率の関連について
2. 貧困村の改善方法について
3. へき地におけるBCGワクチン供給方法について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、医療行政学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。